

# 祝成人

1月3日、すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた281人が成人の仲間入りをしました。

式典では、来賓の祝辞を受け、伊藤早希さんが両親、学校や社会の諸先生、先輩方に対するお礼の言葉と「社会人としての義務と責任を自覚し、個人個人が自己完成に努めるとともに地域の繁栄、郷土の発展のため、力を尽くしたい」と謝辞を述べられました。

また新成人の主張では、岡太市さん、細川宗作さんの2名が今後に向けての前向きな決意を述べられました。（発表内容は、それぞれ次のとおりです。）

新成人は、近況を話したり、写真を撮りあったりして成人の日を迎えた喜びを分かち合っていました。



から勉強ばかりしてというのに抵抗があり入学したものの最初は全く行かず、1、2カ月ぐらい経ってから行くようになりました。その学校は全く校則がなく全て自己責任の学校で自分にビッタリの学校でした。それから毎日通うようになり、英語の勉強に励みました。

そして、パリやロンドンにも行き、オーストラリアへも2回ほど留学をしました。

海外へ行ったときには向こうの学校へ通いながら韓国人や中国人などいろいろな国の人々と交流し、その国々の文化や歴史も学びました。そして、この夏にもオーストラリアへ留学し、日本へ帰って来て今僕の家でオーストラリア人をホームステイさせています。

自分が海外に興味を持った事により今までとは違った視点でいろいろな物を見たり考えたりできるようになり、世界中にたくさんの方々と交流ができて、今では海外にたくさん知り合いができました。そして、今高校を卒業してから入学した英語の専門学校に

## 成人式を迎えて



岡太市

中学校を卒業してもうすぐ5年がたちますが、ほんの何年前か前まで「成人式らあまだ先の事。」と生きていました。けどその成人式という日をとどう迎える事になりました。中学校を卒業してから今日までは、振り返ってみるとあつという間に過ぎてしまっただけで、自分にとってはかなり長かったように感じます。今まで本当にいろいろなあつたし、楽しい事とか、しんどかった事、本当に悲しかった事、いろいろなことが頭に浮かんできます。僕は中学校の時、高校へ進学するつもりは全くなく、中学校を卒業したらすぐ仕事をみつけて働こうと考えていました。そして、自分の好きなように生きていこうと思っていました。周りの人達は

「高校ばあ出ちよけ。」とか、「今からまだ働かんでもいざれ働かないかんがやき急いで働く事はない。」とか、高校には絶対行きたくないと思っていた僕にとっては本当に腹が立つような事ばかり言われました。そして毎日毎日高校の事やこれからの事を悩みました。

僕は友達と一緒に一応、東高校と伊野商業を受けてみました。そしてさらに園芸高校の2次試験も受けてみました。しかし結局全部落ちてしまいました。正直、もしどこかの高校に受かっていたら、受行く気は全くなかったし、受験しに行くときにももし受かっても行きたくなければ行く必要はないしと思っていました。そして高校受験に失敗してしまつた僕は小さい頃からいつか絶対アメリカで暮らしてみたいという夢がありました。毎日毎日学校へ行っても意味ないし別に楽しい事もなし、そして中学校を卒業して仕事をしだしたら自由がなく、なると思っていたので今、自由がきく学生のうちにやりた

い事を全部やって、悔いが残らんようにいろいろ試してみようと思ひ、中学3年の2月にアメリカへ行こうと思ひすぐにアメリカへ行きました。アメリカへ行けば何か自分のやりたい事や、これからの自分のために何かが見つかるかもしれないと思ひました。

アメリカへ着いた僕は自分の想像どおりの街並と広さに圧倒され感激しました。そして日本へ帰って来てすぐにはやっぱり世界は広いと思つたし少し海を渡れば全く違う世界があるということを実感し、今までは日本の中でしか物事を考えていなかったのに対して今度は世界へ目を向けてみようということに気がきました。そしてある日たまたま高校の一覧表みたいなものを眺めていると、セルボーン高等外語学校という学校が目に入り、こんな学校聞いた事ないと思ひながらその学校のことを調べてみたら、英語の学校というのが分かり、一応受けに行つてみたら合格することができました。しかし、まだ自分の中では高校へ行つてまた中学校の時のように朝

通っています。そして、今では語学力に自信もできました。更に視野を拡げこの語学力を生かした世界の中で貿易を通してビジネスに関わる仕事をしてみたいと大きく胸をふくらませていきます。

## 心の在り方を想う



細川宗作

今日、こうして無事に成人式を迎えることができ、喜ばしく思います。家族や学校の先生方、いままでに縁あつた方々、そしてこの土地に感謝の念を感じずにはいられません。

今この胸には未来への夢と希望でいっぱいですが、それと同時に不安を抱いてもいます。時間は皆平等に、こちらの思いなど御構い無しに過ぎ去っていきます。果たし

て積み重ねてきた二十という年月に見合うほどの成長を遂げているのか、という疑問が常に心の片隅にあるのです。では、この不安はどこから来るのでしょうか。私の学校の校長先生が仰つたことに、「教育とは三つに分けられる、知育、徳育、体育である」というものがありました。また、「これからは徳育が重要である。心の時代が来るだろう」とも仰いました。なるほど、知育・体育はその成長・成果が目に見えて現れるのに対し、徳育、心の成長は目に見えず、また答えは決して一つではないということが、このような不安を生み出すのであると言えるでしょう。

では心の成長とはどういうことなのか。私はこう思います。自分の中に、目には見えない大切なものを一つ一つ形作っていくことだと。善悪の区別をつけ、信じるものを、自らの行為を裏付ける信念を見つけていくことだと思ひます。そしてその心に従ひ、裏切らず、嘘をつかず行動していくことが生きていくことに潤いを与えるのではないでし

ようか。しかし、これがなかなか難しいのです。なにしろ答えがハッキリと決まっていものではないから、自分の解答が正しいのかという不安が付いて回ります。また、私たちは良くも悪くも社会の中で生きています。社会には、その土地のルールがあり言葉や慣習も様々な形に多様化しています。そんな中で、自らの解答の正否を周りに求めることは極、自然なことですが、周りに流されることとそれは違うことである。ですが、周りに流されることも持っていると思ひます。それはそこにある安心を求めてのことでしょう。ですが、これから社会的には成人したと認められた私たちは、自らの行動に責任を持たなければなりません。周りに流された決断を取つたとしても、それを周りのせいには出来ないのです。ですから、周りの声を聞き、よく咀嚼し吟味してから行動するのです。自分の決断に誇りを持ってください。自

分が出した解答に対する不安を拭う為には、それを越える自信が必要なのです。こうして自分の考え・思いに過ぎした年月で優劣が決まるとは思ひません。年長者だからといって、その言葉が全て正しいとは限りません。ですから、自分の思いが異なれば意見していただくさい。逆に私たちより若い者が意見したときも、その意見を無下にしないでください。全て一人の人間として平等に接するのです。

こうして語つてきた私ですが、私もまだまだ経験不足であり、知らない世界がたくさんあります。自分はまだまだ未熟者であるということ。そして信念や思いといったものは常に変化しつづけ、目には見えない大切なものの探求は死ぬまで終わらないということ。忘れることなく、未熟者なりの誇りをもって、これからの人生を歩んでいきたいと思ひます。